ジオグリーン65%と他工法の比較

■グラスパーキングの各芝生保護資材の特徴

	緑被率	施工性	耐久性	トータルコスト	不等沈下または不陸	芝生保護性能
ジオグリーン65%	○	○	◎	○	◎	◎
インターロッキングブロック+プラスチック製スペーサー	△	△	○	△	△	○
強化プラスチックマット材	◎	○	△	○	△	△

従来品

強化プラスチックマット材

- 安価で緑化率も高いが紫外線劣化により硬化した箇所の耐久性に欠ける。
- 耐摩耗性に劣り走行部が擦り切れやすく、わだちができることで水たまりができる。
- 車両の出入りの多い駐車場には適さない。

インターロッキングブロック+プラスチック製スペーサー

- 緑化率は50%が限界であり、材料価格が割高。施工性は若干悪い。
- 車の切り返し等の据え切りでインターロッキングブロックが動く可能性がある。
- プラスチック製は重荷重に弱く、不陸の恐れがある。

スペーサー材使用時、据え切りによる影響

ジオグリーン65%なら…

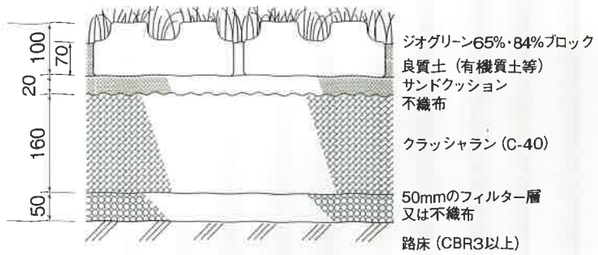
ジオグリーン65%

- コンクリート製なので、従来品のような走行部の擦り切れや紫外線劣化の心配がありません。
- 緑化率を65%確保しながらも、コンクリートブロックの使用で十分な耐圧性を発揮します。
- 車の据え切りでも、ブロックが動く心配はありません。
- インターロッキングブロックと同様で抜群の施工性を誇ります。
- 透水性コンクリートブロックを採用し、芝生の生育に好ましい環境を実現します。
- 雨水を速やかに地中に浸透させるので、水たまりができにくい設計です。

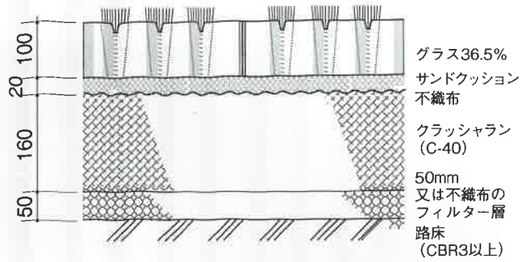
設計事例

路盤構造

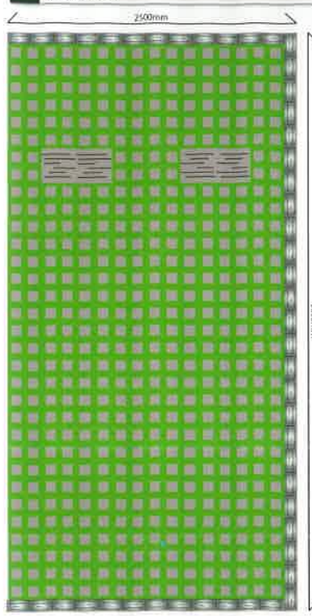
◆ジオグリーン65%



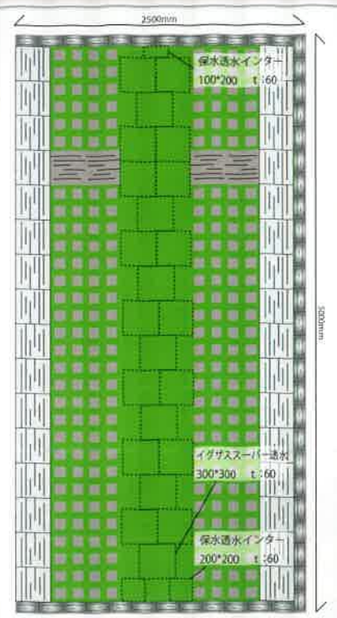
◆グラス36.5%



設計例



駐車面積　2.5m×5m=12.5㎡
緑化面積　7.3㎡
緑化率　58.5%

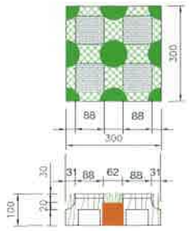


駐車面積　2.5m×5m=12.5㎡
緑化面積　6.4㎡
緑化率　51.3%

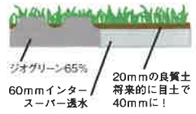
■ブロック一個当たりの緑化率
施工モジュールは30cm×30cm
0.3m×0.3m=0.09㎡
0.088×0.088×4=0.030976㎡
0.09-0.030976=0.059024㎡
0.059024÷0.09=65.58%

■イグザススーパー透水緑化の利点
- ●ジオグリーンブロックの固定に有効である。
- ●タイヤが乗らないので、芝生保護が不必要であるため100%緑化できる。
- ●ジオグリーンと同じ下地レベルで乾式施工が可能である。
- ●透水インターにすることで水はけがよく、且つ、ジオグリーンとの厚みの差が4センチであり適度な芝生育成が可能。

※イグザスはジオグリーンに対して千鳥張りとなるよう施工し、土壌部分を多く残すようにしてください。端部は100サイズや200サイズの保水透水インターで固定してください。客土には腐葉土などの有機質の高いものを使ってください。



グラス100%部分の断面



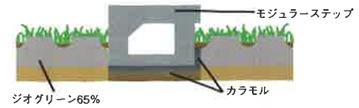
イグザス部分の芝生は、屋上緑化用等の薄いロール状ターフを推奨します。

■使用材料：
ジオグリーン65%(タイヤ位置)
イグザススーパー透水60mm300角(タイヤの乗らない100%緑化の部分)。
モジュラーステップ(取り換え施工が簡単な車止め)、
コルゲート(境界線及び乗降歩行部位)

付属施工 車止め

車止めのメンテナンス性を重視するならモジュラーステップがお勧めです。駐車の頻繁な区画では1年とたたないうちに車止めが外れてしまうケースもありますが、そのたびに、アンカー施工したりするのは大変です。モジュラーステップなら簡単に取り換え可能です。

モジュラーステップを使った簡易式車止め断面図



歩掛り

■コンクリートブロック敷設工10㎡当り(100㎡規模)

ジオグリーン65%

名称	内容	単位	数量
世話役		人	0.3
ブロック工		〃	0.4
普通作業員		〃	0.7
植生保護ブロック	ジオグリーンブロック65%	個	111
中詰め(客土)工	良質土	㎥	0.38
張芝工	高麗芝	㎡	6.5
路盤工	クラッシャ砕石路盤仕上厚16cm	㎥	1.6
サンドクッション	洗い砂　仕上厚20mm	㎥	0.2
フィルター層	洗い砂　仕上厚50mm	㎥	0.5

■コンクリートブロック敷設工10㎡当り(100㎡規模)

グラス36.5%

名称	内容	単位	数量
世話役		人	0.3
ブロック工		〃	0.4
普通作業員		〃	0.7
植生保護ブロック	グラス36.5%	個	132
中詰め(客土)工	良質土	㎥	0.38
張芝工	高麗芝	㎡	3.8
路盤工	クラッシャ砕石路盤仕上厚16cm	㎥	1.6
サンドクッション	洗い砂　仕上厚20mm	㎥	0.2
フィルター層	洗い砂　仕上厚50mm	㎥	0.5